

(学校部会) の内容、方針等

(部会長:菅原覚、 副部会長:佐藤裕士)

項 目	検討内容	今後の方針
部会資料の開示について	各委員が町民から意見を吸い上げるためには、詳しく説明する必要がある。そのために、部会資料をどこまで開示してもよいのか検討する必要がある。	基本的に学校部会で委員に配布された資料は開示する。ただし、協議の上、開示しない方がよいとなった資料については、例外的に開示しない。
行事等の整理の仕方について	行事等の整理の仕方を共通化するために分類方法を検討する必要がある。	4つに分類し、各校の行事等を一覧にして検討していく。 ①学校が主体となって地域が協力するもの ②地域が主体となって学校が協力するもの ③町が主体となって学校が協力するもの ④その他 また、学校共通の「地区運動会」と「学習発表会と地区文化祭の関わり」については、町校長会とまちづくり協議会に調整を依頼することとする。
教育課程に関する今後の進め方について	令和2年度～令和3年度のスケジュール	学校の教育課程内外で取り組む行事(重点化のうえ厳選したもの、理事会では、スリム化も図って欲しいという意見もあった。)とそれ以外の行事(地域の方々と取り組む行事等、見直し図る行事等)を仕分け検討する。 学校部会で検討していることを各まちづくり協議会等、各PTA、各学校と情報共有しながら合意形成を図り、学校部会としての意見をまとめ、町校長会に意見書を出す。
	令和4年度のスケジュール	学校部会の意見書を基に新校の教育課程を学校が作成する。(教育課程の最終的な編成の責任は、学校長にある。) それを学校部会にフィードバックしてもらい、検証する。
交流学习について	今後の進め方	令和2年度中に交流学习の計画等を検討し、学校部会の意見を町校長会に伝える(町校長会で方向性を決定し、学校で具体的な計画を立てる)。 令和3年度から交流学习を実施する。

(学校部会) の内容、方針等

(部会長:菅原覚、 副部会長:佐藤裕士)

項 目	検討内容	今後の方針
行事等の整理について	各校に共通しているものは学校部会では検討せず、統合してから実施していく。	1. 読み聞かせ、2. 人権の花、3. クラブ活動での取り組み、4. 自然教室、5. ダンス教室、6. ジオパーク学習、7. 稲作学習・体験、8. お元気ですか訪問、9. 赤ちゃんふれ合い体験
	教科の学習は、教科のねらいに沿って学校が計画して行うことなので、学校部会では検討しない。	1. 社会科に関するもの、2. 理科に関するもの
	その他、学校部会では検討しないもの(学校に任せるもの)	サクラマス放流
令和2年度以降に検討するもの	国語科の学習	教科書を超えた内容のものは検討する余地あり。
	生活科の学習	遊佐町の山、川、海を体験できるような学習にしたい。
	行事等	高瀬、吹浦等の相撲大会等は地域の特色があるので、丁寧に議論する必要がある。合意形成ができるのか、統合小学校で実現可能なのか、そして、子どもの学びにつながるかが大事である。
	まちづくり協議会が主体で行っているもの	①さまざまな行事があるので、全体でやるのか、地域の子どもたちだけが参加するものなのか考えないといけない。 ②基本、土日の地区の行事であれば、学校に関係なく参加可能。学校の学習発表会と地区の文化祭の関わり合いは、まちづくり協議会、校長会の両者で話し合っ決めて、その後、検討していく。 ③まちづくり協議会側からすると、行事に子どもたちが参加することによって、大人も参加する。そういった形でイベントをしているので、子どもたちの学びにつながるか考えていかなければならない。

(学校部会) の内容、方針等

(部会長:菅原覚、 副部会長:佐藤裕士)

項 目	検討内容	今後の方針
	四大祭	<p>①統合後は、発表の準備などは難しくなってくるのではないかと。</p> <p>②統合後は、準備をなくしても参加できる内容に変更するのも良いのではないかと。</p> <p>③政養祭は、事前にどういう人物なのかを調べて学習する内容となっている。</p> <p>④項目を縦軸だけで見るのではなく、遊佐町の宝なので横断的に考える必要がある。どの地域も愛郷心を育てたいと思っている。藤蔵祭、戴邦碑祭、政養祭、諏訪部祭について、なぜ毎年行われているのか、地域の方が参加しているのか、語ってもらったりインタビューしたりするから意義がある。そのうえで、町の行事(四大祭)を総合で学んでいくことは、子どもたちの学びには非常に効果的であると思う。</p>
	その他	<p>「松の活動」を継続するかどうかについては、統合小学校で何を学校で大事にするかによるかと思う。藤崎小学校では、地域とのつながりを大事にしている。4年生以上が、緑の少年団に入って、地域の方やPTAも含め松を大事にしていこうという内容の活動である。</p>
	「総合的な学習の時間」についての学校部会としての方向性(地域の自然、文化、歴史、行事等の取扱い)	<p>この地域のこの行事を必ず取り入れるという形ではなく、地域のさまざまな素材(自然、文化、歴史等)のリストを準備し、学校側で選択できるようにする。どの内容を取り扱うのかについては、子どもの実態等に合わせて学校に委ねる。</p> <p>ただし、取り扱う内容は固定しない方が良い。毎年、子どもの実態等に合わせて、取り扱う内容を選択していく。子どもたちが楽しく学べるようなものにする。</p> <p>地域に子どもの声をという意見があるので、地域の日を設けることも考慮していく。</p>

(学校部会) の内容、方針等

(部会長:菅原覚、 副部会長:佐藤裕士)

項 目	検討内容	今後の方針
(令和2年度第6回学校部会) 特に合意形成を図る必要がある内容について	総合的な学習の時間について、各校での学習内容をもとにリストを作成し、児童の実態やねらいにそって年度ごとに選択する案	<ul style="list-style-type: none"> ・児童が何を学びたいのかを大事にしながら教育課程を組み立てる。 ・遊佐町全体をフィールドにした豊かで深い学びの場にする。 ・前年と同じ内容を選びがちにならないよう配慮が必要。 ・毎年実施しない内容の場合、地域の先生が対応できない事態も考えられるため、対策が必要。 ・教育課程の中でやるもの、地域でやるもの(授業以外)を精査する。 ・取組み方次第で実施可能なものがあるので、工夫する。
	まちづくり協議会が主体となって行っているもの	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもに参加を呼びかける行事の整理や呼びかけ方について検討が必要。 ・行事日程や内容について、まちづくり協議会同士ですり合わせた方がよい。 ・例えば、それぞれの地域の日を決めることで、今まで参加していなかった他地区の行事に参加できるようになるのではないか。

(学校部会) の内容、方針等

(部会長:菅原覚、 副部会長:佐藤裕士)

項 目	検討内容	今後の方針
(令和2年度第6回学校部会) 交流学習について	方向性と内容	<ul style="list-style-type: none"> ・計画では令和3年度から実施する予定 ・新しく行事を起こすのではなく、今ある教育課程の中で実施する。 ・新学習指導要領、コロナ対策など、学校を取り巻く状況は厳しく、現場への負荷・ストレスも増えているため、立ち止まって考えることも必要。 ・交流学習のねらい、目的をはっきり決めておく。 ・地区、学年など、ある程度の枠をつくって実施する。 ・自然教室(宿泊体験学習)では、オリエンテーションなどで交流活動をする等工夫する。 ・時間の確保が難しくなるので、一堂に会するほうがよい。 ・地域の良さを互いに教えあう交流の仕方がよい。 ・人間関係は高学年になるほど馴染むのがむずかしくなるので、交流について配慮が必要。 ・現在でも交流している行事もある(スポ少など)ので、既存のものを見直す対応でもよい。教員の負担を減らす工夫が必要。 ・スポ少などで既に交流のある関係だけが濃くならないように配慮が必要。
(令和2年度第6回学校部会) 今後について	意見の集約方法	<ul style="list-style-type: none"> ・各種会合等が中止となり、地域の意見を集める場がない状態になっているが、地区やPTAの役員等が集まって情報共有・意見交換をしていく。第7回の学校部会で意見を集約する。
	その他	<ul style="list-style-type: none"> ・町民向けに広報を利用するなどして進捗状況を報告した方がよい。 ・話し合いの途中のものを公表して、意見を吸い上げた方がよい。 ・文章だけではなく、動画での情報発信はどうか。

(学校部会) の内容、方針等

(部会長:菅原覚、 副部会長:佐藤裕士)

項 目	検討内容	今後の方針
(令和2年度第7回学校部会) これまでの学校部会の検討事項に関する意見について	各地区の学習素材の取扱い	<ul style="list-style-type: none"> ・上寺に関する学習は残したい。 ・湧水のビオトープを生かした学習ができると良い。 ・町全体に関わるものを優先して組み込んでどうか。 ・相撲大会はまちセンの体育部会で進める方針。 ・各地区で優先的に残していきたいものをどうするか。 ・どんな学校をつくるかという学校像から、総合的な学習へ反映させていく必要がある。 ・小学校1校、中学校1校となるので、小から中までの学びの繋がりが必要ではないか。
	学習素材のリストの優先順位	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもの学びが優先されることが大前提である。 ・リストの上位を必ず取り入れなければならないという制約があるわけではない。 ・各学校区ごとに大事だと考えている内容を出し合うことも必要である。 ・各学校区から、ぜひ学びに取り入れてもらいたいものを1つか2つ出してもらおう。 ・優先させたい内容がわかるようにリストを作成する。 ・事前に意見を出してもらい、次回の学校部会でリストにして検討する。
(令和2年度第8回学校部会) 教育課程に関する意見書(案)について	学習素材のリスト	<ul style="list-style-type: none"> ・学習素材の分類の仕方は様々あるが、概ね原案通りでよい。厳密に分類しすぎない方がよい。 ・環境は全ての分野に共通している。 ・どの学年が学習するかなどは、学校側に任せる。 ・内容の細かい点を各学校毎に再調整し、次回までにリストを完成させる。